4 場面・情景

学習目標
- ●物語の展開をつかむために、場面を正確に捉えよう。
- ●情景描写の働きを知り、場面の様子を踏まえて人物の心情を捉えよう。

要点のまとめ

●場面

場面とは？ 物語が展開されているその場の様子のこと。

場面の捉え方

次の要素を押さえる。

時（いつ） 場所（どこ） 登場人物（誰） 出来事（どうした）

場面の変化の捉え方

次のような状況の変化に注目する。

時間の経過 場所の移動
人物の登場や退場 新しい出来事の発生 など

- 場面の変化に対応して、登場人物の様子や言動、心情が変化していく。
- 場面の変化と合わせて人物の心情の変化をつかむと、物語の展開を捉えることができる。

●情景

情景とは？ 登場人物の目を通して描かれる風景や場面のこと。その人物の心情が反映される。

例 空には灰色の雲が広がっていた。→どんよりとした気持ち

情景描写を通した心情の捉え方

❶ 描写された情景のイメージを捉える。

描かれている時間帯や季節、色彩や音、使われている言葉のイメージなどに注目する。

❷ 場面の様子や、視点となる人物の状況を読み取る。

同じ情景でも見る人の状況によって見え方、描かれ方が異なることがある。

例 夏の太陽がまぶしかった。→夏の明るさ、開放感
夏の太陽がジリジリと照りつける。→夏の厳しい暑さ、苦しみ

確認問題

●○● 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学二年生の「私」は、入院中でもう長くないと言われている祖母に頼まれて、ある本を探すことになった。

おばあちゃんの言葉通り、次の日、私はメモを持って大型書店にいった。そのころはコンピュータなんてしろものはなくて、店員は、分厚い本をぱらぱらめくって調べてくれた。

「①これ、書名正しいですか？」店員は困ったように私に訊いた。

「と、思いますけど」

5

(1) 場面の様子 ――線①「これ、書名正しいですか？」とありますが、店員はなぜこのように訊いたのですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

ポイント 「次の日」に、「大型書店」で、「私」が、おばあちゃんに頼まれた本を探している場面で、店員が「私」のメモに書いてある本について調べてくれているところであることを押さえる。そのうえで、店員のこの後の言葉に注目して、店員がこのように言った理由を捉える。

「著者名も？　該当する作品が、見あたらないんですよね」
「はあ」
私と店員はしばらくのあいだ見つめ合った。見つめ合っていてもしかたない、ひとつお辞儀をして私は大型書店を去った。
「おばあちゃん、なかったよ」
そのまま病院に直行して言うと、おばあちゃんはあからさまに落胆した顔をした。こちらが落ちこんでしまうくらいの落胆ぶりだった。
「本のタイトルとか、書いた人の名前が、違ってるんじゃないかって」
「違わないよ」ぴしゃりとおばあちゃんは言った。「あたしが間違えるはずがないだろ」
「だったら、ないよ」
おばあちゃんは私の胸のあたりを見つめていたが、
「さがしかたが、甘いんだよ」すねたように言った。「どうせ、一軒いってないって言われてすごすご帰ってきたんだろ。店員も、あんたとおんなじような若い娘なんだろ。もっと知恵のある店員だったらね、あちこち問い合わせて、根気よく調べてくれるはずなんだ」
そうしてふいと横を向き、そのままいびきをかいて眠ってしまった。
私はメモ書きを手にしたまま、パイプ椅子に座って空を見た。季節は冬になろうとしていた。空から目線を引き下げると、バス通りと、バス通りを縁取る街路樹が見えた。②木々の葉はみな落ちて、寒々しい枝が四方に広がっている。
すねて眠るおばあちゃんに視線を移す。私の知っているおばあちゃんより、ずいぶんちいさくなってしまった。それでも、もうすぐ死んでしまう人のようにはどうしても見えない。また、もうすぐ死んでしまうのだと思っても、不思議と私はこわくなかった。きっと、それがどんなことなのか、まだ知らなかったからだろう。今そこにいるだれかが、永遠にいなくなってしまうということが、いったいどんなことなのか。

〈角田光代「さがしもの」より〉

(2) 情景　――線②「木々の葉はみな落ちて、寒々しい枝が四方に広がっている。」とありますが、この表現についての説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　葉の落ちた木々が四方に枝を広げる様子は、頼んだ本を「私」が真剣に探してくれず、すねているおばあちゃんの気持ちを表している。
イ　窓の外の寒々しい街路樹の様子は、努力を認めてくれないおばあちゃんに対して、激しい怒りを感じている「私」の気持ちを表している。
ウ　木々の葉が落ちて寒そうな街路樹の様子は、おばあちゃんの期待どおりの結果が出せず、がっかりしている「私」の気持ちを表している。
エ　冬の寒さの中に立ち並ぶ木々の様子は、おばあちゃんに迫りつつある命の終わりのときを、恐れ悲しむ「私」の気持ちを表している。

□

ポイント　まず、木々の葉がみな落ちている姿、「寒々しい」という表現などに注目すると、寂しく、満たされないイメージが捉えられる。また、この情景は「私」の視点で描かれていること、本を探せなかったことでおばあちゃんがすねているという状況を踏まえて、誰のどのような気持ちを表しているのかを捉える。

(3) 場面　この文章を二つに分けるとすると、後半はどこからですか。後半の初めの五字を抜き出しなさい。

□

ポイント　時間の経過、場所の移動、人物の登場や退場、新しい出来事の発生などに注目して、場面が変化しているのはどこかを考える。ここでは、場所の移動とそれに伴う登場人物の変化を捉える。

演習問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学一年生の私（セン）と二歳年下の妹チエミの家には、毎年恒例で親戚がお盆に泊まりにくる。この年も、洸兄（小学六年生）とその姉マリさんの一家（イチノセキ一家）が、今までどおり泊まりにきていた。

三日だった。高校生になったマリさんが、この何もない田舎で子守に耐えられたのは。

①四日目に、マリさんはお先にとこの家を出ていった。電車で帰ると四回も乗換えがいるらしいのに、それでもひとりで帰った。「夏休みの宿題が間に合わない」という口実ではあったけれど、私はお母さんとばあちゃんが皿洗いをしながらぐちゃぐちゃ言うのを聞いてしまった。

「見だが、あンの足の爪やー。まっピンクよ」

三日間通っていた海に、私と洸兄は行けなくなった。チエミを連れて、田んぼのあぜ道をぶらぶらした。②洸兄はトンボをつかまえて私の耳をかませたり、草相撲に使ういい草の選び方を教えてくれたり、相変わらず面倒見のいい洸兄だったけれど、どこか心ここにあらず、なことが多くなった。私とチエミを遊ばせて、自分は庭の塀の上に腰かけてぼうとする時間もあった。

そういう洸兄を見つけてしまうと、私は何とか気を引きたくて、「連続コインを取るマリオ」とか「マリオに踏まれるクリボー」とかファミコンネタのものまねを披露した。洸兄は大いにウケて、手を叩いて喜んでくれたけれど、でもそれは何の歯止めにもならなかった。私だってわかってはいた。マリさんはきっと二度とここに来ない。そして洸兄も、この先もう何度もここに来て遊んでくれはしないのだ。今年を入れて数えても、五本の指が洸兄のために折られることはないだろう。

八日目に私たち——家族全員から、もう仕事の始まった両親を除いた四人——は、イチノセキ一家を道まで出て見送った。ライトバンの後部座席

(1) 場面の様子　——線①「四日目に、マリさんはお先にとこの家を出ていった。」とありますが、それはなぜですか。文章中の言葉を使って、二十五字以内で書きなさい。

ポイント　「マリさん」が実際に登場している、最初の二つの段落に注目して場面を捉える。お盆に泊まりにくることは「毎年恒例」だったのに、今年はなぜ四回も乗換えをしてまでひとりで帰ったのか、マリさんがおかれている状況を読み取る。

(2) 内容理解　——線②「洸兄はトンボをつかまえて……ぼうとする時間もあった。」とありますが、このような洸兄の様子から、センはどのようなことを感じ取っていますか。次の文の［　　］に当てはまる言葉を、文章中から二十二字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

▪洸兄は、［　　］ということ。

［　　］～［　　］

ポイント　まず、洸兄の様子がどのようなことを意味しているのかを読み取る。そのうえで、次の段落のセンの行動や様子に注目する。センの行動の意図と洸兄の様子から、センが予感している内容をつかむ。

(3) 情景　——線③「うつむいたら……乾いていた。」とありますが、この表現の説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　蟬は激しい鳴き声を思い起こさせるものであり、マリさんや洸兄とのかけがえのない日々を失いたくないというセンの心の叫びを表している。

に乗った洸兄は、私とチエミの頭をそれぞれぽんぽんと叩いて、「また来年な」と言って例のごとく健康的に笑った。私たちは何も言わずにうなずいた。

洸兄とおばちゃんが手を振る、車の窓が遠ざかる。砂利道から出て、学校とは逆のほうへ、長い長い一本道を車は行く。次の集落に入るまで、ずっと車は見えていて、私たちは手を振り続ける。洸兄たちも、私たちが消えるまでえんえん手を振っている。

赤い屋根の家の陰に、車がすっと隠れてしまうと、じいちゃんもばあちゃんもフーッと大きくひと息ついた。「終わった終わった」などと腰を伸ばしながら家のほうへ引っ込んでいく。いつもなら私とチエミもすぐそれに続くのだけれど、チエミはうつむいて動かなかった。私もそこでじっとしていた。

「ねえちゃん」

チエミがふいに顔を上げた。ぎらぎらと濡れた瞳が、まっすぐに私を見た。

「マリちゃん、もう来ないよね」

来ないだろうね、とあやうく返しそうになるのを、ぎりぎりのところで呑み込む。

「わかんないよ。来年になってみなくちゃわかんないよ」

私は腰をかがめて、チエミの両手をにぎった。小さな手はとても熱い。

チエミがぼろんと大粒の涙をこぼして、思わずつられそうになるのを③こらえた。うつむいたら足元で、蟬の死骸に蟻がたかっていた。蟬は、夏の陽に焼かれきってしまったかのように乾いていた。

ざっと音がする。風が吹いて、稲の葉を撫でる音だ。大きい風が、チエミの長い髪をばあっと舞わせて、私の半ズボンから出た脚のあいだを通り抜けていく。

気が付いたら夏休みは、あと四日しかなかった。洸兄が来た日から、一行日記が白いままなのを思い出す。遊び疲れて何も書けなかったのだ。その七行を、小さい文字でつめてつめて十四行くらいにしよう、と思いながら、私は洸兄がしてくれたように、チエミの手をしっかりとにぎり続けていた。

※一部省略等があります。

〈豊島ミホ「入道雲が消えないように」より〉

イ　蟬を焼きつくしてしまうような激しい夏の陽は、センとチエミを見捨てようとしているマリさんや洸兄に対するセンの激しい怒りを表している。

ウ　蟻がたかっている蟬の死骸の哀れな姿は、これ以上面倒を見てやることができないセンやチエミをかわいそうに思う洸兄の気持ちを表している。

エ　蟬の死骸は夏の終わりの象徴であり、毎年繰り返してきたマリさんや洸兄との楽しい時間の終わりを予感したセンの悲しさや寂しさを表している。

□

ポイント　「蟬の死骸」がどのようなイメージで描かれているかを捉える。視点となる人物を特定して、その心情と重ね合わせることで、情景描写に反映された心情を読み取る。

(4)　**場面**　この文章を二つに分けるとすると、後半はどこからですか。後半の初めの五字を抜き出しなさい。

□

ポイント　場面は、時間の経過、場所の移動、人物の登場や退場、新しい出来事の発生など変化に応じて変わる。ここでは時間の経過に注目して、最も大きく場面が変化した部分を読み取る。

(5)　**文章の把握**　この文章で描かれていることの中心として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　親戚づきあいの難しさ。

イ　成長の過程で味わう切なさ。

ウ　人を信じることの苦しさ。

エ　夏休みの思い出の大切さ。

□

ポイント　マリさんや洸兄の行動が、今年は今までと異なったことと、そして今後どうなるとセンたちが予感しているかを押さえ、センとチエミの心情を考える。

実戦問題

◆◇◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

〈岩手〉

午前中に総会を終えたスマイルズに残された最後の行事は卒団式だった。子どもたち、保護者、コーチ陣が一堂に集まり、食事を取りながら六年生の卒団を祝う会だ。ステージにはプロジェクターが用意され、天井からスクリーンが降ろされた。スクリーンに映し出されたのは「スマイルズの思い出」と書かれたスライドだった。入団時の姿から、合宿、県大会、関東大会と順々に映し出されていく。保護者のすすり泣く声が聞こえ出した頃、スクリーンには「卒団記念大会」という文字が浮かんだ。それはつい先週行われた大会だったが、遠い昔のように思えた。センターラインに並ぶオレンジ色の列。キックオフ前に円陣を組んで勝利を誓うイレブン。そして試合に負けて泣き崩れる私の娘の姿が大きく映し出された。

その写真の背景に私の両親の姿が小さく写り込んでいた。病気で関東大会の応援に来られなかった父親がどうしても最後の姿を見ておきたいと言ってやってきていたのだ。ふたりは北風の吹きつける土手の上に折りたたみの椅子を置くとサポーター席と言って笑った。そして大きな声をあげ、スマイルズを応援していた。

この日私は母親から久しぶりに叱られたのだった。それは最後の大会も優勝することができず、表彰式の後、両親のもとに向かったときのことだった。

「せっかく来てくれたのにお寒い内容の試合見せちゃったね。あいつも全然ダメだったし」

①「なに言ってるのよ。みんな最後まで一生懸命戦っていたじゃない！」

母親の目には涙が浮かんでいた。

「あんたね、一番大切なことは勝つことじゃないでしょう。最後まであきらめずに戦うことでしょう。スマイルズの子たちは三点取られたって必死にボールを追いかけていたじゃない」

母親の言うとおりだった。子どもたちは試合終了のホイッスルが鳴るまで、逆転を信じて走り続けていた。

「それにね、自分の子どものことくらいちゃんと見てやりなさいよ。あの子があんなに走れるようになるなんて……」

母親が思い出しているのはきっと幼稚園の運動会のことだった。ビデオカメラや三脚を抱え、朝早く並び場所取りをした運動会で、娘は一生懸命走っていた。しかし走れば走るほどクラスの子とは距離が開いていった。ゴールに着いたとき、他の子はすでにゴールの向こうに座っていた。その姿を見て私も妻も両親も「この子は運動には向かないのね」と肩を落としたのだ。

「それが相手のフォワードに必死にくらいついてボールを奪い取っていたじゃない。私はね、あの子のことを誇りに思うわよ。あんなカッコいいサッカー選手いないわよ」

両手で顔を覆った母親の肩を父親が抱く。

「こいつだってわかってるんだって……」

②「そうだけどさ、子どもはちゃんと褒めてあげないと」

土手の上には冷たい風が吹きつけており、私はなにも言い返すことができずその風に吹かれ、立ち尽くしていた。眼下には娘が必死に走りまわっていたグラウンドがあった。

両親が帰りの準備をし始めた頃、娘が声をあげて土手を駆け上がってきた。

「来ないでいいっていったのに」

「ほんとにカッコよかったよ」

母親はそう言って「今日はお祝いよ」と笑った。

「負けたのにお祝い？」

「一生懸命頑張ったお祝いよ。みんなで美味しいものを食べましょう」

「よーし、ジジはなんでも買ってやるぞ。頑張ったお祝いのご褒美だ」

「ほんと？」

「あんまり高いものは困るけどな」

父親が笑うと、娘はしばらく考え、答えたのだ。

「じゃあ、スパイク」

「えっ？」

思わず娘の顔をのぞき込んだ。

「このスパイク、もうキツいんだよね」

指さすその先には、傷だらけになったオレンジ色のスパイクがあった。ずっと聞きたかったことが私の口からするりと出る。

「中学校でサッカーやるのか？」

「やるよ。サッカー続けるから」

それはまるで青空に浮かんだ③シャボン玉のように思える言葉だった。手で触れたらパチンとはじけてしまいそうで、それ以上、なにも聞けなかった。

「よーし、じゃあ、全部終わったら家に来なさい。ご馳走を用意して待ってるから」

父親と母親は手を振り、駐車場へ歩いていく。娘はチームメイトが待つベンチへ降りていった。

私はひとり土手に立ち、娘が残した言葉を噛み締めていた。

「みんながチャンピオン！」という文字を残し、スライドショーが終わった。明るくなったホールは、ハンカチを目に当てる保護者でいっぱいだった。

〈杉江由次「サッカーデイズ」より〉

(1) 行動・様子 ——線①「母親の目には涙が浮かんでいた。」とは、母親のどのような様子を表していますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　試合に負けて泣き崩れている孫の無念さを想像し、試合の結果を素直に受け入れられないでいる様子。

イ　試合に負けて泣き崩れている孫の無念さを想像し、みんなに励ましの声すらかけられないでいる様子。

ウ　息子である「私」の言葉をとがめながらも、懸命に応援することの大切さを教えようとしている様子。

エ　息子である「私」の言葉をとがめながらも、最後まであきらめずに戦った孫たちに感動している様子。

(2) 情景 ——線②「土手の上には……立ち尽くしていた。」とありますが、このときの「私」の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　母親の言葉から、試合の敗因が娘にあるという考えが誤っていたことに気づかされ、自分自身の情けなさを痛感している。

イ　母親の言葉から、娘の成長を素直に褒める言葉を口にできなかったことに気づかされ、自分のいたらなさを痛感している。

ウ　母親の言葉から、スマイルズを優勝させるために娘が人一倍努力していたことに気づかされ、娘を褒めたいと思っている。

エ　母親の言葉から、娘が楽しんでサッカーの試合をしていたことに気づかされ、今後は娘をささえてやりたいと思っている。

(3) 内容理解 ——線③「シャボン玉のように思える言葉」とありますが、娘の言葉をこのように例えたのは、「私」のどのような気持ちを表そうとしたからですか。それを次のように説明するとき、［　　］A・Bに当てはまる言葉をそれぞれ十五字以上二十字以内で書きなさい。

▪「シャボン玉」を「青空に浮かんだ」と明るいイメージで表現することで［　A　］気持ちを表そうとする一方、「パチンとはじけてしまいそう」と表現することで［　B　］気持ちを表そうとしたから。

A

15

B

15

(4) 場面・表現理解 この文章の表現の特徴について説明したものとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　試合に負けて泣き崩れる娘の姿を回想場面に描くことで、運動に向かない娘の成長を「私」が複雑な気持ちで見ていることを印象づけている。

イ　卒団式の場面と「私」が両親とやり取りする場面を交互に繰り返し描くことで、スマイルズでの思い出がとても深かったことを印象づけている。

ウ　スライドを見ながら保護者がすすり泣く場面を描くことで、チームの子どもたちとコーチ陣のきずなが固いものだったことを印象づけている。

エ　卒団式の場面に最後の大会の回想場面を挿入して描くことで、両親や娘の言葉が今でも「私」の胸に深く刻まれていることを印象づけている。

ポイント

(2)・(3) ——線②・③の表現から読み取れるイメージをそれぞれ押さえて、人物の気持ちと重ね合わせる。

(4) 文章の場面構成を押さえて、印象的に表現されているものを捉える。